会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和4年度職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業  （２）教職員の資質能力向上の推進②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第4回ICT活用WG |
| 開催日時 | 令和4年12月23日（金）　17時00分～18時00分 |
| 場所 | ＹＩＣ情報電子ビジネス専門学校 |
| 出席者 | 事業責任者：岡村　慎一  委　　　員：猪俣　昇、合田　美子、長瀬　あゆみ。瀬戸　直貴、  中田　明子　　　　　　　　　　　　　　　合計6名 |
| 議題等 | 〇成果物の確認等  ・対面での実証講座が岡山、熊谷、沖縄に続き本日の山口YIC学院をもって終了した。  残り1回については、1月11日の新潟のオンラインとなる。  当事業の最終年度となる成果物について、確認を行いたい。本日は、委員全員の出席ではないため最終確定とはしないものの、成果物の完成に向けて、参加者の合意を取りたい。  成果物の確認でポイントとなることは、主に3つある。  ①成果物全体の構成  ②研修プログラムの評価基準  ③研修講師の養成プログラム  特に③の講師養成については、現状、担当していただいた石川講師、中田講師のスキルに依存するところも多くいと考えている。  ・別添の資料に基づき説明（猪俣）  成果物については、以下の通り  ・カリキュラム  ・シラバス  ・教材（スライド、指導マニュアルをノートに記載）  ・（サンプルとして）Google Classroomで開設した場とケーススタディ個人ワークシート、ケーススタディGワークシート  ・事前課題内容（eL教材含む、専用シート）  ・事後課題内容（専用シート）  ・評価基準（効果測定シート、現在の実証講座でも使用中）  なお、研修講師養成プログラムは2023年度扱わないと考えている。  ・資料の過不足があるか、また、講師養成を当事業ではできなかったこととすることに対する委員の意見をお願いしたい。（猪俣）  ・研修の評価基準については、研修の開始時に、受講者に明示したほうが良い。（岡村）  ・講師養成プログラムについては今年度扱わないことで良いと考える。石川講師と中田講師の要素や講師として必要なスキルについては整理した上で今後の課題とできると良い（瀬戸）  ・過去開催回の参加者による研修成果の授業実践例（うまくいった事例）は説得力ある内容であったと思うので、次回以降も反映・良い事例の追加解説を組み込んで頂きたい（長瀬）  ・ケーススタディの事例の事前選びが難しい。レポート上だけでは判断しきれないところがあり、対面研修冒頭のプレゼンを聞いて正確に理解できる場合がある。（石川）  ・事前課題レポートの設問表現は改善すべき。受講者によって、記載内容の具体性・粒度が異なっている。石川先生がおっしゃる通り、対面研修時のプレゼンを聞かないと良く理解できないレポートが散見された。（中田）  ・ログを収集した後の「分析方法」のトレーニングも必要でないか。統計的な分析はデータ量がモノを言うので難しいとしても、学校現場ですぐにできるような簡便な分析方法については事例理解・練習があったほうが良いのではないか。（合田） |
| 配布資料 | ・  ・ |

以上